

令和5年度 第3回下松市地域公共交通活性化協議会

議事要旨

○日時：令和5年12月22日（金）10：00～11：35

○場所：下松市役所 1階 103会議室

○出席委員：20名（欠席3名）

真鍋委員、河合委員、渡瀬委員、木村委員、河村委員、清水委員、田中委員、岩本委員、古田委員、井上委員、舘委員（代理：蔦 真）、弘中委員、棟近委員、中村委員、田川委員、目山委員、安野委員、金織委員、瀬来委員

○事務局：企画政策課

○オブザーバー：株式会社バイタルリード

1 開会

2 議事

（1）地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（コミュニティバス・米泉号関係）

- ・資料1-1、資料1-2、資料1-3、資料1-4を基に市から説明。
- ・周知、利用促進の一環として、くだまつ商工祭りに車両を出展し、パンフレットを配るなどしてPRを行った。また、無料乗車週間を行い、新規利用者の開拓を行った。
- ・1ヶ月当たり利用者数として96人を目標としていたが、コロナ禍による外出頻度の低下から回復せず、また利用を控えていた利用者が戻らなかったことから1カ月あたり58人で、目標達成できなかった。
- ・過去のアンケート結果を踏まえ、R5年10月から予約エリアの曜日指定を廃止するとともに、利用者の声を踏まえたダイヤ設定について検討を行うこととしている。

発言者	発言要旨
会 長	先ほどの説明は10月1日から翌年9月末日までとする事業年度での話である。米泉号は国庫補助を受けているので、自己評価を行い、運輸局に提出するものである。 質問、意見はないか。
委 員	私の専門が都市計画と交通計画である。交通計画のコンサルタントの経験から意見を述べたい。 本件については承認で良いと思うが、やれることはまだあるのではないか。P2の目標設定は甘いのではないかと思うが、これまでの経緯があるかと思うので意見は申し上げない。無料運行をしたから人が乗るという方法はいかなものか。徳山駅周辺については、指定管理事業者を公募しイベントを行いながら駐車場利用を促進するのを目的として、イベント回数がすでに昨年の3倍、今年度中には5倍になる見通しである。そうすると駐車場利用が増え事業者の利益につながる。Win-Winはこういう方法をしないとうまくいかない。

	また、米泉号の定期利用をもっと詰めた方がいい。目的がはっきりしているので、例えば病院の予約と一緒に米泉号の予約がとれるような仕組みができれば変わるのではないかな。 防府市の「まちくるワゴン」は病院を回っており、夫婦で病院に行く人が常に利用されている。公共交通というのは2人以上が乗り合わないという意味がない。夫婦2人で予約して乗ってもらったおかげで実証実験ではある程度うまくいった。そういう工夫はしてほしい。 米泉号を続けていくならもう少し利用者に寄りそう方法が必要。目標設定が100人以下なので、地域の人口もあるがそんなに大きい設定ではない。これをクリアできないのは、いささか工夫が不足しているかと思う。厳しい意見で申し訳ないが工夫できる余地はあるかと思う。 結果が出ているところ、出ていないところ、改善点が整理されており、国の評価に対しての対応もなされているところについては敬意を表したい。
会 長	複数事業に連携、夫婦で乗ってもらうなど、まだできることはあるというご意見であった。
事務局	目標の設定については、確かに人口規模の他、利用者数によって毎年変わってくるものではあるが、委員のおっしゃったように定期利用を詰めるのが大事だと思う。そこを詰めて増やすことによって、小さい目標だがクリアするようにしていければと思う。病院と同時に予約できるのも新しい内容であらためて勉強になった。参考にしながら今後も定期利用を詰めれるように制度設計したい。
会 長	今後の参考にさせていただく。
委 員	くだまつ商工祭りに米泉号を出展して200名に乗っていただいたということだが、どういう形でPRをしたのか、参考にお聞かせいただきたい。
事務局	目を引くために、車両ラッピングに施されている下松市のキャラクター「くだまる」と写真を撮ろうとアピールして子どもの気を引き、その間に親にチラシやルートのポスターを見ていただいたりした。 米泉号を知っている人は一定数いらっしゃったが、米川地区の住民限定で他の人は乗車できないと思われる方が半数以上いたので、乗ってくださいとPRできた。
委 員	継続したPRも重要かと思うので続けてほしい。
会 長	市政80周年の際に「くだまる」を作ったときには、市内の小学生5,000人に投票して選んでもらい、中学生に開票作業をしてもらうことで選挙啓発も兼ねて行ったので、この世代の子どもたちはみんな知っているキャラクターだと思う。まずは関心をもってもらうのに車両のラッピングは非常に効果的ではないかと思う。 他にないか。 では事務局の提案について、国への申請の過程で軽微な修正は事務局にて行うことを含めて承認いただけるか。
	(全員挙手)

会 長	全員挙手と見受けられる。承認として支局へ提出する。
-----	---------------------------

3. 報告

- (1) 米泉号の1年間における利用状況について
- (2) 米泉号無料乗車WEEKイベントの実施結果

- ・資料2-1を基に、米泉号の利用状況についてバイタルリードから説明。
- ・年間利用者数は2,318人で、令和元年10月の運行開始以来、最も少ない。
- ・曜日別では火曜日が最も多く、北エリアの運行日である月・水・金の予約運行エリア利用者が非常に少ない。
- ・便別では、2便が最も多い。一方で、1便、4便、7便は1便あたり1人未満となっている。
- ・予約運行エリアの実利用者は昨年度よりも5名増加した。
- ・資料2-2を基に、米泉号無料乗車WEEKの結果について事務局から説明。
- ・8月21日～26日まで、運賃が無料になる取組を行い、のべ68名が乗車した。期間中は昨年同期の2.5倍、8月～10月はいずれも前年度よりも利用が増えた。
- ・アンケートにより新規の利用者が増えたことが確認されている。
- ・1便、7便の利用者が少ないことと、ダイヤについての要望が多いことを踏まえ、ダイヤの改善が課題である。

発言者	発言要旨
会 長	質問、意見はないか。
委 員	無料WEEKのアンケート設問9で、予約が大変、面倒と書いてあるが、予約をなくすことはできるのか。
事務局	予約のどこがどう大変なのかを確認しているが、予約締切が前日15時なのが大変、当日に予約ができないのが不便と思われる。他市だと1時間前が締切になっている例もある。予約締切を変えることで不便を解消できるかもしれないが、予約を受け付けるオペレーター、運転手、車両の確保のハードルが高い。AIを活用し、メールで予約して運転手に伝えるような先進的な取組の事例もあるが、そこまでは取り入れられない。タブレットを扱える方が多い地区であればできるかもしれない。現状では直前予約できれば利用が増えるかとも思っているが実現は大変かと思う。
委 員	笠戸の実証運行についても聞こうと思っていたが、予約に拘り過ぎず、空席があれば使えるようにすべきではないか。利用者増加に少しは関連あるかと思う。乗客が増えるように考えてほしい。
事務局	確かに空いているタクシーがあってもすぐ配車できれば便利だと思う。しかし、タクシーが出払う時間帯もあり、市の施策が原因で一般利用者がタクシーを利用できなくなるということではいけない。今後、空き車両を確保できる状況を作り出すことができれば、岩本委員のおっしゃるような予約シス

	テムも作れると思うので今後とも継続して検討したい。
委 員	質問だが、米泉号は行きより帰りの便が少ないということではないか。
事務局	帰りの便の方が多い。
委 員	アンケートの中で朝の便数を増やしてほしいという意見があった。もし行きより帰りの便が少ないなら、帰りを無料にすれば利用者は増える。運転士が利用者に帰りの無料券を発行すれば良い。 利用者数を増やすことを目的とするなら、利用者が公共交通に合わせて手建てを組んでいくようにしないと、サービスを上げる方向では人手や費用が増える。病院に行くなら、病院の次の診療予約を取るときに、病院側が利用便を聞いて時間を少し工夫してくれるだけでも変わる。予約システムは別にして、そのような工夫ができればかなり楽になるのではないかな。 同じ無料でもイベント的に無料にするか、普段の帰り道を無料にするか。病院に行った後でサンリブに寄って帰るようなモデルケースもあるので、利用者に寄り添った方が良い。
委 員	病院に話をしておくというのはいい案だと思う。
委 員	病院側も患者さんを大事にしたい。交通も兼ねていくのはいいと思う。
事務局	幅広く連携していくこと、帰り方の工夫についても斬新な案をいただいた。みなさんからお知恵をお借りしてやっていきたい。
会 長	他にご意見はあるか。 それでは次に進める。

(3) 下松市地域公共交通計画の事業評価（途中報告）

(4) 笠戸島デマンド型乗合タクシー実証実験について

- ・資料3を基に、事業評価の途中経過について事務局から説明。
- ・公共交通の利用増などで市の負担がやや減少した。
- ・鉄道とバスの乗継はバス会社が考慮しており7割以上の割合になっているが、「乗継できる」と定義している5～15分を少しはみ出て16、17分が多くなり、乗継率はやや減少した。
- ・資料4－1～4－5を基に、笠戸島デマンド型乗合タクシー実証実験について事務局から説明。
- ・令和6年1月16日から3月15日まで実証実験を行う。
- ・運行時刻等については前回お示しした内容から多少変更している。
- ・運賃にかかる協議を行うための協議会を開催し、承認された。

発言者	発言要旨
会 長	ご意見、質問はないか。
委 員	笠戸島のデマンドタクシーのステッカーがどう見ても小さい。縦横がもう2倍～4倍アップほしい。米泉号の車両は見てわかる。それに対して笠戸島の方は走行しているのを見るには見えにくいのではないかな。大きくPRしてほしい。

	パンフレットの「よくある質問」の中で、「予約をしてなくても席に空きがあれば利用できますか？」に対し「予約しなければ席があっても利用できない」と書いてある。基本はこれでいいが、多くの人に利用してもらいたいで、空席があるのであれば運転士に相談して乗車できるという対応も必要ではないか。運転士から本部へ連絡すれば良い。
会 長	ステッカーの大きさと、予約についてのご意見である。デマンド運行とタクシーの違いもあるので、事務局いかがか。
事務局	ステッカーについては米泉号と比べると確かに小さく目立たないので、本格運行になる際にはサイズを大きくしたいと考えている。今回のデマンドタクシーは完全予約制なので、予約した人がタクシーを見つけられるサイズとして、今のようになっている。今後PRも含めて大きくすることも検討する。 予約については、おっしゃる通りより多くの方に利用してほしい気持ちは強く持ってる。ただ、空いていても、予約制の乗合タクシーなので実はすでに埋まっていることもあるし、4人乗りで乗車人数が限られているので、予約した人が乗りそびれないようにしないといけない。車両が米泉号のように大きいサイズになれば予約がなくても利用できるような仕組みにできるのではないかと思うので、今後に生かしていきたい。
会 長	実証実験ということで、これで最終確定ではない。利用者や事業者など様々な方から意見をいただくことになる。第1歩と言うことで実証実験としてはこれで進めることを理解いただきたい。
委 員	資料3について。0件と続いているところがあるが、乗り方教室はカウントしないのか。無料WEEKをなぜ乗り方教室と言わないのか。無料で乗せるということは乗り方を教えるのと変わらないのではないか。 バス車両でないといけないならバスを短時間でも借りて、乗り方や運賃の払い方などを教える。最近の子供はバスに乗る機会が少ないし1人では乗らないので、バスを借りて乗り方教室にしてカウントしてはどうか。大きなイベントを打たないといけないわけではない。米泉号の無料WEEKをカウントしないのはもったいない。 その他、評価指標9「待合環境の整備件数」、評価指標13「関係者と協働により実施した事業件数」は今からでもできそうなものがあるので提案する。例えば、企業にベンチを提供してもらい、公共交通のマーク、提供した企業のマークを貼って、置く場所はバス停に限らず、サンリブや病院の待合室でも良い。車両に貼っていても動くのでずっと見ることができるわけではない。市役所でも星プラザなどでも、全部官民連携につながる。下松市内にはいい企業もたくさんあるので、協力を求める取組をすればすぐに達成できる。1口5万円と言えば反応がある。これらを実施すればすぐに目標は達成できる。行政が企画して乗っかってしてほしいと言う場合はできるが、逆に民間から発案すると行政が壁になって乗り越えないといけないことが多くあるので、行政がアイディアを募れば民間からもっといいアイデ

	ィアが出るかもしれない。企業の街「下松市」ならできる。 一方で、企業側は人材を求めているが市民に伝わっていない。人材募集をベンチに出せば求職中の人が見ることもあるのではないかな。 実現が難しいことも、これまでの努力されてきたこともわかるが、他人が言わないとわからないと思い提案した。
会 長	斬新な意見で、当たり前で素晴らしいと思う。オール下松を掲げて、市民団体や企業と協働で取り組んでいるが、そういうのが苦手な街なので、しっかり言っていただいてその通りだと思ふ。公共交通に特化して何か募集するというのはいいかと思う。事務局さっそく検討してはどうか。 イベントも単体ではなく、他のこともからめて行うということもある。今年のくだまつ商工祭りでは、はしご車よりもバスにきた人の方が多かった。具体的なアイディアは思いつかなかったが、何かできるなと思った。逆に言うと、バスは自分たちから遠い存在になってしまったとも感じた。市長も同じように感じたようである。
事務局	評価指標のカウントについては、そのような方法があると気付いた。同時に他のことも実施する、小さいイベントも積み重ねていくなど工夫できる。道路上のバス停にベンチを置くのは固定しないといけなないなど費用などの面で難しいが敷地内設置ならできるし、ベンチに寄贈の社名を入れることでWin-Winで進めるなど、参考になると思った。考えていきたい。
会 長	その他にないか。 では報告事項は以上である。

(4) その他

発言者	発言要旨
会 長	全体を通してご意見・ご質問はないか。
委 員	下松市、光市を運行する当社の周防営業所について、維持・存続が困難になり2024年3月31日の運行を以って廃止することとなった。8月7日にプレスリリースを行っているが会議での報告が遅れお詫び申し上げる。
事務局	下松市の系統についても廃止となる。光市内は光市が中心に調整されている。3月末まではしっかりと運行をお願いしたい。
委 員	支援についてのお願いがある。熊毛南高校でアンケートを行ったが、熊毛南に行くバスがなく、バスに乗りたくても乗れない状況である。同様に周南側から田布施に行くバスも難しくなっている。光高校も6割は地域外から来ており、駅からのバスがないと困るという声がある。高専は6割が3市から通っているが、岩国や山口市からの通学者もいて駅からバスを利用する。学生フリーパス周南だと1ヶ月8,000円で利用できるが、熊毛や須々万、鹿野はエリアに含まれておらず全線フリーパスで19,000円になる。学生からは、乗りたくても乗れない、朝は親の送迎でいいが帰りだけバスに乗りたいたので片道定期があればいいという意見が出ている。 山口県では学校区が消えたので市域を超えての通学が当たり前になった。

	何とかその高校生世代を救うことができないか。全県フリーパスと、各エリアパスの差額分を行政が負担したらどうか。試算してみたが小さい負担でできる。公共交通は高齢者だけでなく、高校生も課題になっているという認識で考えていただきたいというお願いである。
会 長	下松市だけの問題ではないので、県も含めて、道路管理者や事業者、教育委員会も含めて交通と利用者にできることをみんなで考える必要がある。
委 員	高校生が公共交通の担い手と考えていただきたい。その上で運賃負担の問題が出てくる。便数を増やさなくても使えるが、使いたくても使えない状況になっているという認識していただきたい。
会 長	それぞれの立場でいい街、いい公共交通が作られたらと思う。できることからやっていきたい。 事務局にお返しする。
事務局	次回の協議会は3月を予定している。
会 長	以上で第3回下松市地域公共交通活性化協議会を終了する。

— 委員名簿 —

	所属	役職	氏名
1	下松市	企画財政部長	真鍋 俊幸
2	防長交通株式会社	営業部長	河合 貴志
3	中国ジェイアールバス株式会社	運輸部生活交通活性化 推進室 室長	渡瀬 千博
4	西日本旅客鉄道株式会社 中国統括本部 広島支社 地域交通（山口）	課長	木村 善栄
5	メトロ交通株式会社	取締役	河村 英輝
6	周南近鉄タクシー株式会社	総務部長	河村 憲朗
7	一般社団法人 山口県タクシー協会	理事	清水 延隆
8	下松市自治会連合会	会長	田中 豊
9	シニアクラブ下松	副会長	岩本 昇
10	社会福祉法人下松市社会福祉協議会	常務理事	相本 美重子
11	下松市小・中学校 PTA 連合会母親委員会	代表	井上 佳織
12	下松市連合婦人会	会長	古田 尊子
13	下松市	健康福祉部長	瀬来 輝夫
14	中国運輸局山口運輸支局	首席運輸企画専門官	舘 昭憲
15	私鉄中国地方労働組合防長交通支部周南 分会	分会長	弘中 賢男
16	中国地方整備局山口河川国道事務所	交通対策課長	三浦 道人
17	山口県周南土木建築事務所	企画調査室主幹	棟近 宏之
18	下松市	建設部長	中村 竜之
19	下松警察署	交通課長	田川 勇
20	徳山工業高等専門学校	土木建築工学科准教授	目山 直樹
21	山口県観光スポーツ文化部	交通政策課長	渡邊 昭博
22	下松商工会議所	専務理事	安野 政行
23	下松商業開発株式会社	代表取締役	金織 平浩